

第3章 グループインタビューの結果

第1節 グループインタビューの実施概要

1 目的

調査者がウェブアンケート調査の回答者に直接出会い、現在の仕事や暮らしに関する悩みや不安、望むサポートなどに関する生の声を聴くことで、現状と希望をより具体的に把握することを目的に実施した。個別インタビューではなく、グループインタビューというかたちで行うことで、インタビューされる対象者同士が会えることも意図した。

2 実施概要

(1) 参加者決定のプロセス

以下の手順で横浜、大阪、福岡3カ所でのインタビュー参加者を決定した。

- ① ウェブアンケート調査の最後に「グループインタビューへの協力意向」をたずね、メールアドレスの記載を依頼。
- ② メールアドレスを記載した86人(アンケート回答者の3人に1人)を居住地ごとに3エリア(首都圏、近畿圏、九州圏)に分け、それぞれのエリアの回答者に対して、調査主体である3者より、グループインタビューの日程、会場等についてメールを送付。
- ③ 各エリアで参加希望の返信があった者の中から、抽選で参加者を決定。

なお、居住地の記載がなかった回答者、3エリアに当てはまらない回答者に対しては、横浜協会より連絡した。

◆エリア別の実施体制

エリア	連絡者・グループインタビュー実施者
首都圏	公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会
近畿圏	一般財団法人 大阪市男女共同参画のまち創生協会
九州圏	公立大学法人 福岡女子大学 教授 野依智子

第3章 グループインタビューの結果

(2) 実施方法

参加者・調査者が同じテーブルにつき、ウェブアンケート調査の結果（概要）を共有しながら、リラックスした雰囲気の中で座談を行った。安全・安心な場をつくることに最も留意し、はじめに「同意書」を呈示して、インタビューの目的と結果の使い方、発言のルールを確認した。進め方は各回共通とし、①現在の仕事や生活の状況、②悩みや不安、③望むサポートの3点について聴きとった。

※同意書は資料編参照

◆配布物と進め方

配布物	・調査についての同意書／参加者プロフィール一覧／集計結果グラフ抜粋
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調査員より「同意書」を呈示。インタビューの目的、結果のまとめ方と公開方法、聞く内容、場のルール等について説明。質問を受けた。 ・参加者による自己紹介（20分程度） ・集計結果抜粋について説明 ・インタビュー（90分程度） ・最後に、サインした「同意書」を受け取り、プロフィール一覧を回収

(3) 実施状況

3会場で計5回のグループインタビューを実施し、全体で22人の参加を得た。

◆実施日時・人数・会場

	エリア	実施日時	実施人数		実施会場
			参加者	調査者	
第1回	首都圏	2015年11月29日(日) 10:00-12:00	6人	3人	男女共同参画センター横浜南
第2回	首都圏	2015年12月5日(土) 13:00-15:00	6人	3人	
第3回	近畿圏	2015年12月13日(日) 13:00-15:00	4人	2人	クレオ大阪中央
第4回	九州圏	2015年12月26日(土) 13:00-15:00	2人	2人	福岡市男女共同参画推進センター・アミカス
第5回	九州圏	2016年1月9日(土) 13:00-15:00	4人	2人	
計5回			22人		

(4) ウェブアンケート調査を知った情報経路

グループインタビュー参加者に、本ウェブアンケート調査を知った情報経路についてたずねたところ、以下のとおりであった。

◆参加者がアンケートを知った情報経路

区分	人数	内訳	
電子媒体	15人	<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブック（8人） ・ツイッター（3人） ・ネット上のニュース（2人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査実施団体のメールマガジン（1人） ・民間団体のメール配信（1人）
紙媒体	4人	・新聞（3人）	・チラシ（1人）
その他	3人	・知人から（2人）	・不明（1人）
計	22人		

第2節 グループインタビューの結果

1 横浜（首都圏）

参加者12人のインタビュー結果は、次のとおりである。

(1) プロフィール

30代後半 派遣社員	契約社員だったが、仕事を干され、雇止めにあった。希望の業界があり、経験がなかったので派遣で入った。3年たったので正社員の打診をしたら「今のまま続けて」と言われた。
30代後半 派遣社員	2002年の就活のころ不景気で、100社近く面接を受けたが内定をもらえず、派遣社員になる。途中で正社員も経験。派遣会社はこれまで3社で働いた。
30代後半 派遣社員	学生時代からやりたい仕事があり、働きながら専門学校に通った。内定ももらったが通学のために派遣の働き方を選んだ。今も派遣で働きながら週末に別の仕事。正社員だと兼業できない。
40代前半 契約社員	初職は正社員だったが、異動、部署の統廃合などでリストラにあい、派遣やアルバイトで働かざるを得なくなった。
40代前半 アルバイト	正社員だったが残業代は出ず、あまりにも長時間労働だった。やりたいことをする時間を確保しようと転職し、アルバイトに。
40代前半 時給の契約社員	正社員だったが、業績悪化で退社。その後の留学経験が買われ、派遣会社で外資系に派遣される。名前は契約社員だが時給で、1~2ヵ月の契約を繰り返している。
40代前半 嘱託職員	正社員で証券会社に入ったが、退職して留学。留学前はお金を貯めながらいろいろな業界を見てみたいと思い非正規職で働いたが、その後正社員をめざした時には仕事がなかった。
40代後半 契約社員	ベンチャー企業の正社員だったが、会社がつぶれ、困って契約職員に。5年で雇止めにあった後、社労士を取得。それを活かして正社員になるも、事業主側に立つ社風と合わずに退職。現在は契約社員。
40代後半 フリーランス	初職は広告代理店の正社員。仲間と会社を設立したが、バブル後に倒産し、その後は経験を活かしてフリーで働いた。5年前に夫と死別。学校に通い、ライターとして働いている。
40代後半 個人事業主	医療系の元公務員。現在はその道の国家試験対策講師。場所を選ばなければ65歳超えても食べていけると思い、非正規職を選択。時給は高めだが、契約は半年ごとの更新。
50代前半 時給の契約社員	派遣スタッフのお世話係を、自分も派遣社員として行っていた。社員への登用制度を使いたかったが、途中で制度がなくなった。その後取った資格を活かして転職したら、行政の下請け業務で時給の契約社員に。賞与なし。
50代前半 契約社員	元プログラマー。泊まりもあり不規則で、いつ休めるかわからなかった。子ども時代の性被害の影響か、人と接しない仕事を求めてきた。過食・拒食からの糖尿病をかかえて1日6時間働く。

※なお、12人中3人がキャリアコンサルタント、社会保険労務士、看護師の資格を活かして働いていた。また、5人が一人暮らしであった。

(2) インタビュー参加の動機

- これまでの経験から語りたいたことがたくさんあり、自由記述も長めに書いたが、実際に話したかった。
- 同じような立場の人と会って、自分を見つめ直したいと思った。
- 「大学時代に遊んでいたから正社員につけなかった」、「好きでそういう働き方を選んだんじゃないか」などと言われ、つらかった。それはまったく無知、勘違いであることをこの調査を通じて社会にわかってほしいと思った。
- なかなか正社員にはなれない状況がある。今の職場でも正社員は育児休業も保障されているが、自分の立場では想像もできない。現状をわかってもらっていないので、直接声を届けたいと思った。
- さまざまな理由で非正規職になるのは誰にでも起こりうることだ。もっとこの問題に陽が当たってほしいと思っている。

(3) 現在感じている悩みや不安

【「負のスパイラル」について】

- 40代女性の仕事は家計補助とされているのか、まずフルタイムの募集が少ない。国の支援も子育てや介護ばかり。職場でも正社員の好待遇に対して休暇等をカバーする「独り者」の負担が増す。年齢的に成果だけは期待されるためプレッシャーも重い。高い保険料が引かれているが、自分が体調を崩しても休みも取れず、病院にも行かれず、退職した。
- 健康、仕事、住まいの心配はつながっている。自分の老後も親の老後も不安。お金があれば減らせる心配もあると感じる。派遣社員では交際・趣味にかけられるお金がなくて、はけ口がないのはきつい。「調整弁」にされていると思うと転職したいが、年齢を考え迷う。正社員と非正規職との「差」にもっと注目してほしい。
- 非正規職で長く働いていると、経験値が積み上がらず、求人への応募もできない。精神的に不調になった場合も休める期間が短い。また3年契約で、雇用を切られてしまう不安から体調が悪くても休みづらい。
- 健康、住まい、親との関係。国民健康保険は入っているが、民間の保険には入れないので、重い病になったら治療費が支払えない。住まいは、家賃が値上げされたら払えないし、転居するにも親が高齢で保証人になれるのか心配。雇用状況から言っても、次の仕事があるのか不安。友人の祝い事に、祝い金も出せないし、正社員の友人に祝い金が必要か？と考える自分が情けなく、学生時代の友人といい関係が築けなくなりつつある。今後親の介護が始まったら自分が戻って介護すべきなのか悩む。介護しながら収入を得られるのか？実家に帰って、結婚した方がいいと言われたこともあるが、地元にとりだけ仕事があるのか。

【「低収入」について】

- 自立できる収入がほしいが、生涯賃金はとても低い。自分があと20年働きたいと思っても「若年層のキャリア形成のため」と求人に年齢制限があり、年齢が上がると応募できず、正社員になりにくくなる。
- アルバイトの今は自分の時間もあり、職場の雰囲気はいいが、給料が安い。

- 老後のための貯金はできず、趣味や交際費も削るしかない。
- 年金をもらえないと思うので貯金したいが、生活していただくでやっとな。実家からも出たいが一人暮らしでは貯金ができず、老後が心配。

【雇用不安について】

- 昔は年功序列で退職金もあり、老後の不安は少なかったのでは。世代によってここまで状況が違うのは不公平だ。今の職場は来月末で終了。年末年始をどうしようか。この業界に、自分程度の能力でできる仕事はなくなってきており、あるのは短期間の「つなぎ」仕事だけ。外資系の契約期間は通常1ヵ月で、「今度は長期で」と言われたら2ヵ月だった。
- (派遣で働く)現在の職場は契約書も交わさない3ヵ月更新で、2015年秋の更新は派遣法成立を待って、10月1日までされなかった。
- 派遣法改正の内容が心配。自分の希望する内容で現在は働けているが、それが切られてしまうのかどうか。派遣元の社員になると、どんな派遣先でも行けと言われれば拒否できなくなってしまう。それは望んでいない。

【親の介護・病気について】

- 両親二人とも病気で、親と同居する兄がほぼ不在のため、私が毎晩仕事帰りに食事づくりに行っている。「私の人生は介護で終わる」と思った。独身で末っ子だと介護を担わされる。
- 以前母の通院で急きょ仕事を休んだら、それで契約期間が短くなったことがある。介護はともお金がかかり、睡眠も削られる。
- 母は障害を持ち、父は介助が必要になった。現在はボケ防止のため、あえてあまり手を出していないが、今後必要になってくる。
- 将来、病気の父の世話をするのは、同居している自分。母の介護のときも姉は正規職で介護休暇があったが、姉の出産と重なったので自分が担った。自分は身分保障もないのに介護休暇をとったが、姉には事情を理解してもらえない。
- 親の介護では、男兄弟が2人いるが仕事をしているので、自分が仕事をやめて介護をすることになるのでは、と思う。結婚していて夫の収入があって保証されていれば、それもありがたいが、自分はそうではない。自由がない。

【自分の医療費・病気について】

- 正社員だと健康診断は無料だが、自分は費用を比較して受ける範囲を(限定的に)選ばざるを得ない。健康面や老後の不安は、若いときは感じなかったが、今ひしひしと感じている。
- 糖尿病治療のためインシュリンを打っている。低血糖で倒れても一人暮らしだと見つけてもらえないのでは、という不安があるので、隣人には伝えてある。透析を始めるようになると、普通の仕事にはつけない。
- 国民健康保険なので、風邪ひとつで3千円ぐらいとんでいく。今後身体の不具合が増えたら、より病院へのハードルが高くなりそう。すごい金額が保険料として取られているが、風邪程度なら市販薬で、と考えてしまう。正社員は調子が悪い時でも、ちゃんとケアしてもらえる制度が整っているし、健康管理がしやすいと思う。

【住まいについて】

- 住まいに関して、今は父と住んでいるが独立したい。URの賃貸住宅を探しても家族向けは多いが、シングル向けにはない。

【結婚・子どもについて】

- 結婚は考えたい。それ以上に、結婚しなくてもシングルマザーになってでも子どもがほしいが、金銭的に余裕がなければ難しいし、シングルマザーで実家住まいだと、生計が一緒という理由で支援が受けられない。しかし、独立すれば家賃もかかり、カツカツした生活になって、子どもに平均的な人生を歩ませられないだろうと思う。

(4) 望むサポート

【社会の風潮や制度について】

- 私たちが（正社員の仕事を肩代わりしたりして）会社の仕事をまわしているということ、マスコミにももっと知ってもらいたい。子育てと両立する女性ばかりでなく、陰でずっと地道に努力を続けてきた人も評価してほしい。
- 雇用形態の違いでなく、仕事の成果で給料をもらいたい。
- （雇用差別などがあつたときに）意見を吸い上げて実行に移してもらえる相談場所。
- 企業をはじめとした就職の場に対して「雇用差別はだめ」などペナルティーをつけてほしい。
- 個人事業主にも失業保険のようなものがあるといいが。
- 住まいのサポートがほしい。家賃が高いので。
- 住まいのサポート。空家や団地などを安く提供してくれないだろうか。住まいがないのは切実。高齢者の多い団地なら、自分（たちの世代として）もできることはやろうと思うが。

【具体的なサポートプログラムについて】

- 交流サイトがあるとよい。
- 同じ立場の人との交流。
- 自由に来ておしゃべりできる「集まり」がほしい。お金がないので無料か安い値段で。仕事場でないところで、人のおしゃべりがしたい。
- 公共施設の人気の講座はすぐいっぱいになるし、平日昼の開催が多いので、仕事帰りにできるものがほしい。21時まで仕事をしている人もいるので、深夜12時くらいまで、講座があつてもよいのでは。担当する職員を置くのが難しければ、夜間～深夜の講座専用のスタッフを雇えば、新たな雇用にもつながる可能性がある。
- 仕事のマッチングや異業種交流会など。キラキラやギラギラのものではなく、内容がもう少しやわらかいもの。
- 実際に仕事につながるもの。
- 他人から見て「その人の光るもの」を見つけて、本人が自信を持てるようなもの。
- そのままでもいい、と自信をつけてくれるようなカウンセリングがあつたらよい。
- 企業とのマッチングも必要。求人を見ているだけでは、ハードルが高すぎて応募する前からおじけづいてしまう。求人企業のニーズと、その人の売りを見てマッチングしてくれるキャ

リアコンサルタントのサービスなど。自分のキャリアに自信がない人はどうやってアピールしたらよいかわからないので。

- 若い時にあったらと思うのは、性被害にあったときに話し合えるような場。
- 就業形態関係なしに、スキルアップできる機会があればうれしい。
- 勉強後に交流会の場があったらよい。別々に開催して、あらためて集まって交流、とすると参加のハードルが高くなる。
- 業界で求められていることなどの業界事情を教えてもらえるといい。そのあと個別相談があるなどもよい。
- マッチングと定着支援。
- 資格取得支援では、英語とパソコンスキル。働きながらスキルアップできる機会を、安く提供してほしい。
- 職探しのときにネガティブなことを言われ続けると、就活にも影響が出るので、カウンセリングがあったらいい。
- サービスを受ける日時としては、不規則就労の人は平日昼間がいいだろうし、平日夜のほうがよい人もいる。2タイプに分けてはどうか。

【その他 参加した感想など】

- 面接でひどいことを言われても誰にも言えずつらかったが、今回(グループインタビューに)参加してはじめて話せたことがあった。
- このような場でいろいろ話すことで、今後どのようなサポートが必要かを考えたい。今日も他の人の話を聞いてうなづくことが多かった。また、今回は知人から情報を得たが、そのような情報自体どこからとればよいのかを知りたい。



2 大阪（近畿圏）

参加者4人のインタビュー結果は、次のとおりである。

（1）プロフィール

40代前半 業務委託	編集者の仕事をしなくて、ずっと派遣。正社員登用を匂わせられて行った派遣先で雇止めに。食べていくのがつらくても、派遣という働き方にはもう戻らないと決め、現在はフリーランスに。
40代前半 アルバイト	大学卒業後、就職。ずっと営業職で頑張ってきたが、離職。前は声をあげたりしていたが、あげても仕方ないのかなという感じが強くあり、今はちょっと疲れてしまっている。
40代前半 常勤嘱託職員	ヘルパー2級・看護助手の時に労災認定されず退職勧奨。苦勞して働きながら国家資格を取得。ソーシャルワーカーとして働くが、行政は非正規化が進み、正規職には年齢制限があつて応募できない。
50代前半 パート	母の介護をするためにいろいろと準備をしていた時に、勤怠が悪いといって契約を切られた。ユニオンに駆け込んで先方と交渉。今はそのユニオンで会計事務をしている。

（2）インタビュー参加の動機

- 非正規職シングル女性の困難な状況は（ユニオンでの）仕事柄たくさん見ている。自分自身の将来とも重なり、切実、深刻と以前から感じ、活動もしてきた。社会的にとりあげられていないと感じていたので、今回応募した。
- 私（非正規職、シングル、女性）が書いてもいいアンケートがあるんだなと思ったところから応募した。
- 若い世代に対して私自身の実情を、反面教師ではないが見せたい。ワークシェアをするとか、働き方を変えなければと思う。役に立てればと思い、参加した。

（3）現在感じている悩みや不安

【“非正規職”で働くことについて】

- 自分で選んでフリーランスという立場になったが、それは社会保険を手放したということ。自由度は増したが、アンバランス。
- 現在42歳。ロストジェネレーションのど真ん中。有名企業にいても会社がつぶれることもあり、正社員が安泰というイメージが自分にはない。
- 初心者OKで講習するという仕事が派遣にあったので、そこでパソコン等の基本をきっちり教えてもらった。これまでの仕事（父の事務所）の給与が安く、世間一般の賃金がなんぼかを知らなかったの、不満もなかった。経験を積み、いろいろと任されるようになってからは賃金交渉もできた。派遣であることには、それほど不満はなかった。

- 派遣という働き方は、以前は価格交渉が当たり前だった。今は、雇止めもあるので、みんな黙ってしまう。
- 常勤嘱託職員という立場。関係機関への指示やコーディネートなどかなりの力量を要する。が、役職も何もなく、人の3倍働いて、他の非正規職の人たちと同じ給料。給料交渉の余地もなく、1年契約で、来年の契約はどうか分からない。

【スキル・経験等について】

- 大学卒業後、祖母の介護の問題もあり、父が開業していた事務所の手伝いをしていた。その後、就職活動をするなかで、父の事務所にいたことは職歴にならないと片っぱしから言われた。

【シングル女性のイメージ、結婚・出産について】

- 不安定ながらも方向性が固まってきて、いざ、結婚・出産ということを考えた時に「高齢出産」という壁が。育児の前に、介護もやってきそう。
- 学生時代から結婚する気がなかったが、そのことを話しても本気にされなかった。子どものころから、主婦になるということを考えたことがない。営業職で働いていた時、先輩男性の妻が専業主婦で、自分と同世代の女性にそういう生き方（専業主婦）があると知り、愕然とした。
- （政府は）子ども2人生んでほしいと言っているわりに、働いてほしいと言う。生み時は20代だと思うが、20代に仕事をしないとその後働きにくい。

【年齢差別について】

- 40代になって、なんでこんなに生きにくいのかと漠然と思う。社会の目も、仕事の目も年齢差別を感じる。
- 正規職の採用も年齢制限で受けられない。
- お金を貯めてから大学に行ったため、卒業時に年をとって正社員になれなかった。正規雇用の年齢差別の根拠が知りたい。性差別が法的に禁止されていくなか、なぜ学歴差別、年齢差別がまだあるのか不思議。
- 派遣には35歳限界説がある。年齢制限と闘うのから逃げたくて、フリーになったともいえる。年齢の高い人に一から教えることの大変さはあるが、それは教え方の問題でもある。「20代が素直」という人には「それは、君の理想の女やろ」と言いたい。「女性」市場としても、「人材」市場としても年齢差別をかけられていると感じる。

【闘ってきた経験について】

- 雇止めにあった時、周囲からもう少し闘えばいいと言われたが、蓄えもなく、弁護士費用もない。昼間に裁判所に行ったら働けない。闘える人は、まだ余裕のある人だと言えると思う。
- 前は声をあげたりしていたが、疲れてしまった。声をあげても仕方がないという感じが強くある。上から変えてもらう方法はないのかなと思う。昔は、私なりに弱い力でがんばったが、結局、何も変わらない。「自分でなんとかせな」と思うが、うまくいかない。
- 理不尽なことがあった時に一人でも声をあげられる人はいいが、みんなと足並みをそろえたいという人も多い。私自身、雇止めにあった時にユニオンに入ったが、同僚からは「私たちも辞めさせられるかも」と責められ、「違うよ」というところから説明した。

第3章 グループインタビューの結果

- 派遣会社と闘ったことで見えてきたこともある。直面しないとそのまま知らなかった。(踏んばることができる年齢で、会社と対する経験をしたことは)もしかしたらラッキーだったのかも。先に闘い方を知ることができたから。正社員は(契約更新などで)闘わなくてもいいというところがうらやましくもある。

(4) 望むサポート

【社会の風潮や制度について】

- 求人者の年齢差別を撤廃してほしい。
- 非正規職ほど不安定なのだから、待遇をよくしてほしい。
- 生活保護に対するスティグマをなくしたい。
- 生活保護の資力調査の見直しなど、使い勝手のよいしくみに変更して。
- 公営住宅に非正規職シングルの優先枠を設けてほしい。
- 病院、高齢者施設に入る際の保証人制度をつくってほしい。
- 非正規職をめぐる状況は問題として認識されていても、「結婚したら問題解決する」ということで見過ごされてきたところがある。結婚を前提とした制度になっていることがおかしい。

【具体的なサポートプログラムについて】

- 非正規職の人が正規職に転身するための支援。採用試験やエントリーシート、適性検査対策等で、実際に合格に達することができるような支援を無料でしてほしい。
- オンライン形式等、働きながら受けられる研修の仕組みを整えてほしい。
- 運転免許の費用を援助してほしい(ハローワークでの求人は多くが、高卒資格と運転免許必須)。
- 情報提供について。正社員なら必要な情報を会社が収集してくれるが、非正規職では情報と知識は自分で収集する必要がある。生きるすべ、知恵をつける必要がある。
- ジョブマッチング。短時間で働きたい人も多い一方で、人が足りないという声もたくさん聞く。そのバランスをとったマッチングを行政に行ってほしい。

【「つながる」必要について】

- 同じ経験をしている非正規職シングル女性の組織化。男女共同参画センターが組織化の役割を担ってほしい。
- 声をあげられない人もいるけど、まず声をあげないと、いないことにされている。
- 声をあげるために、仲間と出会うしくみと、客観的に自分を見る機会が必要。自分が置かれている状況を客観的に眺める機会さえないのが現状。この実情がおかしいということにも気づいていない。これが普通と思っている人も多いが、「普通ではない」とまず気づかないといけない。
- 非正規職シングル女性の貧困を解消するためのソーシャルアクションがしたい。

3 福岡（九州圏）

参加者6人のインタビュー結果は、次のとおりである。

(1) プロフィール

30代後半 パート	大卒後から非正規職。もともとからだが弱く、20代前半から精神的に不調。フルタイムだと自律神経不調、頭痛などで1ヵ月続かない。最近、パートで保険に加入。親の援助もいつまで受けられるか。
40代前半 嘱託職員	大卒後、バブル崩壊直後の超氷河期で、正規職にはつかなかった。コールセンターなどで働き、1年契約の3年任期や5年任期の仕事をしている。
40代後半 嘱託社員	社長秘書をしていたが、パワハラで精神的に不調となり辞職。残業代不払いで訴え。正社員にならないとあせり、さらに不調に。40歳過ぎて、正社員希望は捨て、また働きだした。
40代後半 契約社員	高卒後、大学進学を断念し、大学校を出て保育士となるも、3年で辞職。その後図書館で働きながら通信教育で大卒と司書資格を取得。正規の司書にはなれず嘱託・契約職でつなぎ20年、将来への展望が全く持てない。
50代前半 パート	父親が倒れ、介護のため仕事を辞めた。両親が不仲で、母親が父親の面倒をみなかった。現在、父親は入院。一人では生活できない母親と二人暮らし。1日5時間のパート。
50代前半 契約社員	大卒後、正社員で働いたが膨大な業務にからだを壊し、辞職した。その後、派遣などを経て、社会福祉関係の契約社員となったが、いつ契約を切られるか不安。結婚して子がいて当然と暗黙の差別がある。同居の親との衝突も。

(2) インタビュー参加の経路

6人のうち、福岡市内在住は3人、近隣市内在住が2人、他県からが1人であった。また、1人は、アンケート期間終了後にフェイスブック上で横浜事務局と連絡をとった者であった。

(3) 現在感じている悩みや不安

【非正規職で働く者の不利・不安について】

- 契約社員なので打ち切られるのが不安。
- 働く日数を増やしても収入の安定にはつながらない。
- もう一つ仕事を増やすか、仕事を変えるか。現在、午後働いているので、午前の仕事を探すことになる。
- 「女性活用」といっても既婚者のこと。私たちが活用してほしい。
- キャリアアップできるステージが用意されていない。
- 5年勤続すると専門員の資格が取れるが、雇用契約が続くかどうかわからない。
- 非正規職で転々としているからマネジメントの経験がない。昇任しようにもできないことに気づいた。雇止め後、仕事をどう続けられるか。
- 休日のローテーションなど、子持ち女性が優遇されている。シングルにしわ寄せがくる。
- 職場の改善を何回か提案したところ、事務的な仕事から現場に回されたのが不満。
- ハローワークの窓口には、体調のことなど相談しにくい。
- ハローワークに行っても、心身の不調で働けないということを理解してもらえない。

第3章 グループインタビューの結果

【暮らしの不安や葛藤について】

- 親と同居してやっとの生活。賃貸なので親が死んだらホームレスと思っている。住居が心配。また不調になったら働けなくなる。
- 年金もあてにできない。妹夫婦には迷惑はかけられない。
- 健康面で、フルタイムで働けない。今は親から援助してもらっているが、いつまで続くかわからない。
- 実家にいるので親との衝突がある。親が亡くなったあと、今の実家を自分一人で保てるか不安。
- 実家にいると体調が悪化。親との葛藤がある。
- 経済的に厳しい。
- カツカツで一人暮らしをしている。貧乏を気づかれぬように。でもあまり削りすぎると病院に行くことになり、出費となるから、そうならない程度に。
- 老後のことは全然考えられない。1年先がどうなるかわからないから。
- あと3年とか5年とか、最期の時が見えればと思う。死んだほうがいいと思うときがある。明るく話しているけど、けっこう深刻。

【社会の中で】

- シングルなので、年齢的にも結婚して子どもがいて当然という暗黙の差別がある。
- マザーズ・ハローワークは行きづらい。
- 非正規職シングルにスポットが当たっていない。どうアクションすればいいのか。

(4) 望むサポート

【働く上で】

- とりあえず時給を上げてほしい。そうしないと何も始まらない。
- 仕事のマッチング機関があれば。
- 労働者を大事にする企業の可視化を望む。

【暮らしについて】

- 月収20万円（程度は保障されること）。
- 家賃が高い。非正規職シングル女性を対象にした家賃補助がほしい。正社員にはあるのに、生活が苦しい非正規職にないのは逆。
- 公団・公営住宅に非正規職割引があれば。

【社会的対応、悩みの共有について】

- 女性活躍と言っているが、中高年の非正規職シングルの活躍も政策にあげてほしい。
- 悩みを共有できる場がほしい。
- 行政のサポートや、社会資源の情報がほしい。

(5) その他

- 資格を取って、海外で働きたい。
- 年金の7~8万円で暮らせる国に行きたい。

コラム ■声なき声を拾っていくこと

横浜のグループインタビューでは週に30時間以上働く派遣社員や契約社員が参加者に多く、パート・アルバイトの人が少なかった。また、回答者に一定の割合でみられた、体調がすぐれず、休み休み働いている女性たちからは直接声を聴くことができなかったのではないかと。

そう考え、横浜協会では3度目のグループインタビューとして平日夜間等の実施を計画し、パート・アルバイトの対象者に連絡をとった。しかし、メール返信があったのはたった一人で、実現しなかった。本人の了解を得て、返信の内容を紹介したい。

●グループインタビューに参加できなかった人から届いた声

「他の方からお返事がこなかったということ、残念でした。私はわかるような気がします。非正規でさらにパートの私は、日程が合わない時に、そのことを伝え、自分から意見を述べるエネルギーが少なかったり、自分の都合を伝えるのは申し訳ないと思ってしまうからです。私は常に自己責任論にとらわれています。でも、ご担当者がお返事は遅くなくてもよいので、とそれを察してくださったことで、私は希望を持つことができました。

実は今、仕事のストレスから持病を再発し、休職しています。今お腹が痛いのですが、医者に行くか迷っています。お金がかかるからです。寝込んだり、治療機関に通ったり、資格の勉強をしています。私には今、努力に努力を重ねて生きてきて、なぜ自分は貧困に陥っているのか、無力感があります。古いネズミの出る自宅に暮らしていますが、ある福祉の方に相談したところ、自宅売却をしないことを強く叱責されました。私にとってはかけがえのない家です。妹が若くして亡くなった時に植えた桜の木があります。咲いたことはなく、いつか咲けばと待ち続けています。長く調律もできず音の狂ったピアノを弾くことが、わずかな慰めですが、アパートに移れば弾けなくなります。近所の方との長いつながりもあります。

今休職していることもあり、諸事情からも、自分を責めています。けれどどこかで、社会にこういう問題を訴え、理解してほしいと願っています。こうしたアンケートなどの活動に、希望を感じ、社会から見捨てられていないかもしれないと感じることができました。どうかよろしくお願いたします。」

実際に会って聴くことができない、こうした女性たちの声を拾っていく手立てはどこにあるのだろうか。それを考えていかななくてはならない。